

【新着情報】

36.4 ! 昨日、武漢市が今年初めて高温黄色注意報を発表、今日から 3 日間「烈日と残暑」が「主役を演じる」:

日中は肌をさすように太陽が照りつけ、夜は蒸し暑く、寝返りをうつばかり。昨日武漢市は今年初の猛暑日となり、その気温は 36 度に上った。予報によると数日間は高温多湿の状態が続くとのことで、市民への十分な水分補給、暑さ対策、外出の自粛が勧告されている。

昨日、最低気温は 28.1 で、市民に朝からその「威力」を見せつけることになった。じりじりと照りつける太陽を防ぐため、多くの通行人は「完全武装」している。沿道の各店舗のクーラーはフル回転で稼働しており、苦しそうな音をあげている。

7 月 15 日午前 11 時、武漢中心気象庁より、武漢市及び鄂東地区におけるむこう三日間の最高気温が 35 度を超えるという、今年初の高温黄色注意報が発表された。

同日午後 2 時、最高気温は 36.4 度となり、多くの市民はデパートやスーパーへ涼みに行った。

夕方、三鎮の空に黒雲が立ち込め、雷の音がゴロゴロとなったが雨がなかなか降らず、天気は相変わらず蒸し暑い状態が続いた。

気象専門家によると、現在西太平洋熱帯高気圧が活発な時期であり、例年、この時期は南から風が吹くのだが、今年は東からも吹いており、湿気が多く、蒸し暑くなっているのだそうである。

武漢市の今日の天気は、晴れ時々曇り、気温 28 度～35 度、湿度 50%～85%、東風 2 級。今晚から明日の朝にかけては、曇り、気温 28 度～35 度、湿度 50%～85%、東風 2 級。明日の夜から明後日の朝かけて晴れ時々曇りである。
(7 月 15 日)

「7・16」記念日 千人以上の市民が自発的に長江を横断:



図:昨日、武漢市にて水泳愛好者が長江を横断

1966 年 7 月 16 日、当時 73 歳と高齢であった毛沢東が、最後に武漢で長江を横断した日である。以来、この日は武漢水泳愛好者が長江を横断する記念日となった。42 周年の記念日にあたる昨日「7・16」、1000 人以上の市民が、安全に注意しながら、自発的に長江を横断した。

午前9時50分、河南の周口、湖北省京山、鐘祥、老河口及び武漢本地の各地からの水泳愛好者が武昌漢陽から長江に入り、4000mを超える長江横断を開始した。長江を横断する最高年齢者は74歳、最年少者は10歳であった。

救命救助船のガイド支援のもと、1時間後に、漢口江灘三峡石広場から水平台に、最後のチームが安全に到着した。「以前、漢江で泳いでいたが、今日、やっと長江で泳ぐことができた。また、この長江は毛沢東主席が以前泳いだことがあったところで、『中流遊泳』の感覚が、とても刺激的であった。」鐘祥水泳チームのキャプテン徐光明は岸にあがって、興奮気味に語った。

全コースを泳いだ後、ずっと岸でチームメンバーの到着を待つ武漢冬遊メンバーの宋芳は、「今日は毛沢東さんが長江を渡った記念日であり、また、中国人の百年の夢であるオリンピック開催が実現する日も近い。また、長江の横断遊泳の健康法で、北京オリンピックの声援も、より元気になることであろう。」
(7月17日)

江岸区が「両型社会(資源節約型、環境友好型)」づくりに重点

工場を周辺エリアに移転:

江岸区は今後、都市中心部に生産、加工型工業企業を建設しない。これは、昨日の「環境都市フォーラムの建設及び『両型社会』の建設集会」において発表された。

今ある工場を「江岸」、「堤角」と「幸福堤防」等、江岸区の周辺になる環境型の都市工業団地に移転することとし、区の産業振興重点を近代的サービス業を主体とし、「第11期5ヵ計画末」(2010年)までに、近代サービス業の区内における産業構成比率を、現在の74%から80%に伸ばすとしている。この計画は、江岸区が「両型社会」づくりのモデル地区として、策定したものである。

江岸区は「武漢外灘バンド」があり、歴史的、文化な風土が色濃く残っている。また、金融貿易産業が発達していることから、江岸区では、三大近代サービス業集積エリアと、五大近代サービス業センターを整備することを決定し、地域ビジネスと金融機能を突出させるとしている。

(7月18日)

武漢市22名中学生が来日:

7月22日に、「第3回武漢市青少年科学普及国際サマーキャンプ」の結団式が武漢科学技術館において、行われた。科学発明大会やその他の科学普及、科学技術分野のコンクールで受賞した武漢市22名の中学生が、今日から9日間日本を訪問し研修する。

日本滞在中、子供達は東京、大阪、京都などにある科学館や学校で青少年科学技術活動を見学することになっており、科学発明について、地元の小中学生と交流を行う。武漢市科学協会の責任者は、子供達が今回の活動を通じて、視野を広げ、科学技術イノベーションの意識を高めるとともに、帰国後に、多くの子供達に影響を及ぼすことを期待している。

今回の国際サマースキャンプは武漢市科学協会と教育局が協力して開催したものであり、市責任者袁善臘と劉家棟が結団式に出席した。(7月23日)

武漢市が2011年の国際園芸博覧会に立候補:

これは2011年が辛亥革命100周年を迎えることによるもの。昨日、市長業務調整会議において、武漢市が2011年の第8回中国国際園芸花卉博覧会の開催地に積極的に誘致することとなった。

中国国際園芸花卉博覧会は住宅・都市建設部が主催する。現在、最高レベル、最大規模の国際的博覧会である。これまで、大連、南京、広州、深圳、アモイでそれぞれ開催され、2009年の第7回博覧会は山東省済南市で開催されることになっている。

国際園芸博覧会は開催時に巨額の経済効果と大きな社会的効果を生み出すほか、主催される都市にエコロジー、景観、レジャー、文化を融合させ、開催後半、異なる国や地域の庭園が一定に会することとなるために、持続的なエコツーリズム・レジャー区域として活用される。今回の博覧会開催地に立候補するにあたり、武漢市の立地、山水資源、コンベンションの経験などは優位である。しかし、誘致競争は非常に激しく、重慶、鄭州、北戴河、青島などの都市も立候補を予定している。(7月24日)

東方電機と武漢ボイラー 武漢での原子力発電設備の製造拠点建設の契約に署名:

7月24日、中国東方電機集団と武漢ボイラー集団有限公司、市政府は、武漢において原子力発電設備製造拠点を建設するための合弁契約に調印した。

省委副書記であり市委書記である楊松が調印式に出席。阮成發市長は「プロジェクトを円滑に進めるため、市党委員会及び市政府は全力で支援し、すべての優遇政策と便宜を提供する。東方電機にはこれをきっかけに、武漢と一層の提携を深めてほしい」と発言した。

中国東方電機集団は、国内における最大の発電設備メーカーの一つである。中国の原子力発電事業の発展に伴い、これまでに徳陽、自貢、広州などに原子力発電設備工場を建設してきた。昨年中部地域に参入し、武漢ボイラー集団と協議した結果、江夏区で原子力発電設備工場が決定、昨日調印に至り、提携プロジェクトが動き出すことになる。

市の幹部である彭麗敏、孫麗、および市政府秘書長譚仁杰も調印式に出席。(7月25日)

インド・カルカッタ市と武漢市が友好提携備忘録に調印:

インド・カルカッタ市長バタチャルヤ氏及びインド最大企業の一つであるバラター商会のアカワラ会長をはじめとする経済代表団が25日、武漢を訪問した。阮成發武漢市長が代表団一行と会

見した後、双方は「友好提携備忘録」に共同調印した。

カルカッタ市はインドの重要な経済、交通、文化の中心の一つであり、金融業務に関しては、インド全体の約1/3を占めている。世界最大のインド麻の加工工業団地を有し、主にくず糸紡織、鉄鋼、軍需、機械、自動車、モーターなどの工業がある。さらに南アジアの枢軸となる重要な国際空港やインド東海岸最大の港もある。

阮成発市長は代表団の来訪を熱烈に歓迎して、「武漢市の地理的メリット、経済及び社会の発展状況」を紹介した。また、「両市が『友好提携備忘録』に基づいて、より一層緊密なパートナーシップを結び、双方にとって『ウイン・ウイン』の実現できる」と期待を表明した。（7月28日）

日立製品展を12月、武漢で開催：

12月2日から3日にかけて、シャングリラホテルで日立製品展が開催され、日立グループが生産した様々な家電製品などが展示される。先日、阮成発市長が日立(中国)有限会社の川野薫社長一行と会見し、武漢への生産拠点誘致を要望した。

日立グループは世界500強の企業であり、現在、中国国内だけでも140社以上の関連企業をかかえ、従業員数は約5万人、年間売上額は、8890億円に達する。

阮成発市長は「喜んで日立製品展をサポートしたい」と語った。また、「これを契機に、武漢と日立の提携を新たな発展段階に持っていきたい」と表明した。

川野薫氏は「武漢は中国中部の心臓である。日立は省エネ・環境保全の分野で特に発展しているので、ぜひ武漢において、両型社会(資源節約型、環境友好型)づくりに貢献したい」と語った。

(7月30日)

武漢の企業はコスト緩和～一部の紡織製品の輸出付加価値税の還付率を2%引き上げ：

7月31日、国家財政部及び国家税務総務から、「一部の紡織製品と衣類の輸出還付率を2%引き上げ、以前の11%から13%に調整し、8月1日から実行する」ことが発表された。武漢における関係企業によると、税率の調整は人民元の切り上げ及びコスト上昇による負担を緩和でき、下半期の輸出促進に影響を与えるとされている。

近年、輸出拡大に伴う貿易黒字を抑制するため、紡織衣類の輸出還付率は徐々に引き下げられ、以前の17%から11%にまで下げられた。今年、外需緩和、人民元の切り上げ及びコストの上昇、輸出還付率の引き下げなど様々な原因で、紡織業界の境遇は極めて苦しく、一部の企業が倒産に至るまでになった。このたびの還付率の引き上げは、企業の負担を減らすと同時に、業界全体の収益を高めるうえで有利とされている。（8月1日）